



法人役員改選 — 令和7年定時評議員会・臨時理事会開催

令和7年(2025年)6月21日(土)14時～17時 於: アルカディア市ヶ谷 5階会議室「穂高東」

6月21日午後2時、令和7年定時評議員会がアルカディア市ヶ谷にて開催された。評議員12名の内、井上潔評議員を除く11名が出席、片桐勝臣評議員が議長となり、令和6年度事業報告、決算計算書類、監査報告等につき審議した結果、全会一致で承認された。

つづいて、本会議の終結をもって任期満了となる役員（理事・監事）の改選が行われ、以下の通り理事12名と監事2名が選任された。（敬称略）

【理事】林史典（67）、深澤克巳（115）、福與卓臣（117）、竹村治恭（140）、伊原江太郎（147）、田尻実（207）、原誠（220）、池野兼浩（298）、坪木崇（408）、田中淳一（470）、岩原優（580）、山崎達也（584）【監事】後田健太郎（593）、松澤直紀（596）

理事の山崎達也さんが新任で他の理事11名と監事2名は重任となった。なお、前理事の中村克己さん（190）は病氣療養のため任期満了をもって退任された。

定時評議員会終了後、臨時理事会を開催し、以下の通り代表理事と執行役員（副理事長、常務理事）が選出され、役員職務分掌が承認された。

【代表理事】福與卓臣 【副理事長】深澤克巳 【常務理事】池野兼浩、坪木 崇、岩原 優



新任理事・山崎達也



若松屋・林家の次男・林金三郎が開業した酒屋『若松屋』の奥座敷

川路村の素封家・関島家の次女・千代と結婚した林家の次男・金三郎は、飯田で起きた紙問屋騒動を機に、酒造りに長じた斎藤重三郎を連れて江戸に移り住み、芝(港区)で造り酒屋「若松屋」を開業。「若松屋」の近くには飯田藩主堀家の下屋敷や薩摩藩の上屋敷・蔵屋敷などがあり、芝浜の魚市場もあったことから順調に繁盛した。その繁盛の裏には金座を管理する御金改役・後藤三右衛門光亨となった実弟奥輔の力添えがある。「若松屋」は後藤家を通じて薩摩藩など大藩の御用商人となった。

若松屋には酒蔵以外に奥座敷があり、直接東京湾に通じる水路もあったと言われ、隠密に会合を持つには絶好の場所だったため、西郷隆盛、勝海舟、山岡鉄舟、高橋泥舟、坂本龍馬など、開国と江戸無血開城を目指した藩士たちの密談場となった。当時の執政者・水野忠邦による「天保の改革」の失敗により失脚した水野に連座し、後藤三右衛門光亨も贈収賄の罪で斬首されると、実兄である金三郎は大きな衝撃を受け、若松屋の経営を斎藤重三郎に任せて、自身は弟・三右衛門光亨(奥輔)の墓がある江東区の雲光寺に近い紀州屋敷の蔵元に転じた。

桜田門外の変が起こった万延元年に金三郎は没し、その二年後に信州から斎藤重三郎の息子・茂七夫妻が上京し若松屋の二代目となる。茂七の長男茂吉が三代目。初代斎藤重三郎の親戚の羽場愛三郎が夫婦で養子に入り四代目茂吉となり「東京市酒造組合」を設立、初代組合長に就任。四代目茂吉が明治41年61歳で他界後、残された娘のツルは明治42年(1909年)に酒造業を廃業。その後ツルは飯田市龍江の親戚から林拙三を婿養子に迎え食堂として、戦後は雑貨業としてその経営を続けた。平成23年(2011年)、拙三の孫で七代目の斎藤俊一が酒造業の復活を目指して製造免許を取得し、酒蔵「若松屋」を再興させた。若松屋・東京芝の酒『江戸開城』の由来は上記の歴史にある。

関島家による名優の川路興行招請を支援した後藤三右衛門

信州・川路村に当代名優の興行を招請したのは関島家(大上)の長男・関島光広(記一)である。

『川路村関島光広(記一)』は、飯田出身の江戸金座・後藤三右衛門の義兄である。後藤氏は、江戸金座御金改役で、造幣ならびに紀州家の会計方を務め、巨万の富を擁し、老中・水野忠邦の股肱(ここう)にして、天保改革に参与し、三羽鳥の一人と称せらる。学識該博にして常に文人墨客と会して雅遊をなし、又時の名優・市川団十郎、尾上菊五郎と深交あり。文政中、光広しばしば江戸へ行き、後藤氏に寄寓し、市川尾上などと交遊し遂に川路村に招請するに至る。当時演劇の地は、江戸、大坂の外、長崎、静岡、吉田、甲府、名古屋等とす。然るに山路七十里をへだつる信州・川路村へ出演するは、異数のことにして、深き因縁と云うべし。これらの興行に対し、後藤三右衛門は、二百三十両を出して支援したという。

1834(天保5年)：尾上菊五郎(51歳)興行。三代目菊五郎、俳名梅幸、梅寿一座(尾上菊五郎、尾上栄三郎、市川寿美蔵等、尾上梅之丞其他77人)、10月3日、東海道三州吉田よりの道中、ごまの蠅対策で植木職人に変装して来着。10月19日～31日の13日間興行、晴天なり。

1841(天保12年)：市川団十郎(52歳)興行。七代目団十郎、俳名白猿、7月24日、甲府、高遠を経て川路着、総勢72人。8月2日～19日の10日間興行。1846年(弘化3年)：坂東三津五郎(四世)興行。』 <関島記一の曾孫・北原源三郎著『名優川路興行記』より>

この関島家による名優たちの川路興行は、飯田人形劇文化の形成に大いに寄与したといわれている。

みちくさ ① 後藤三右衛門光亨の菩提寺 浄土宗・西教寺(飯田市伝馬町2丁目)

西教寺は、「江戸金座・御金改役を務め栄華を極めた 後藤三右衛門光亨、「天下の糸平」と呼ばれた財界人 田中平八、伊那谷の鉄道(飯田線)敷設功労者 伊原五郎兵衛 の菩提寺であり、風越山山頂の白山社奥宮近くにある ”南無阿弥陀仏” と刻まれた巨大な「可円和尚の名号石」があるが、その可円和尚とは、西教寺の名僧・第16世日譽可円上人のことである。同寺には、可円和尚筆の名号原書が寺宝(長さ5.8m、幅約1mの巨大な掛軸)として保管されている。」

《舎友の故・平沢忠明氏(舎友No.145)著『風越山物語 ― 開山1300年 信州飯田市民が愛する名山』より》

みちくさ ② 若松屋林家・後藤家・関島両家の血縁者

信陽舎と縁のある若松屋林家・後藤家・関島両家の血縁者

後藤三右衛門：江戸金座・御金改役、若松屋・林家三男・奥輔、舎友会長・林史典さんの先祖

樋口秀雄：文学者・国会議員、綿屋・樋口家一統、日夏耿之介の叔父で信陽舎建設功労者

日夏耿之介：詩人・英文学者・早大教授・信陽舎大塚台舎友No.49、本名は樋口国登(こくと)、綿屋・樋口家直系、飯田市名誉市民第1号

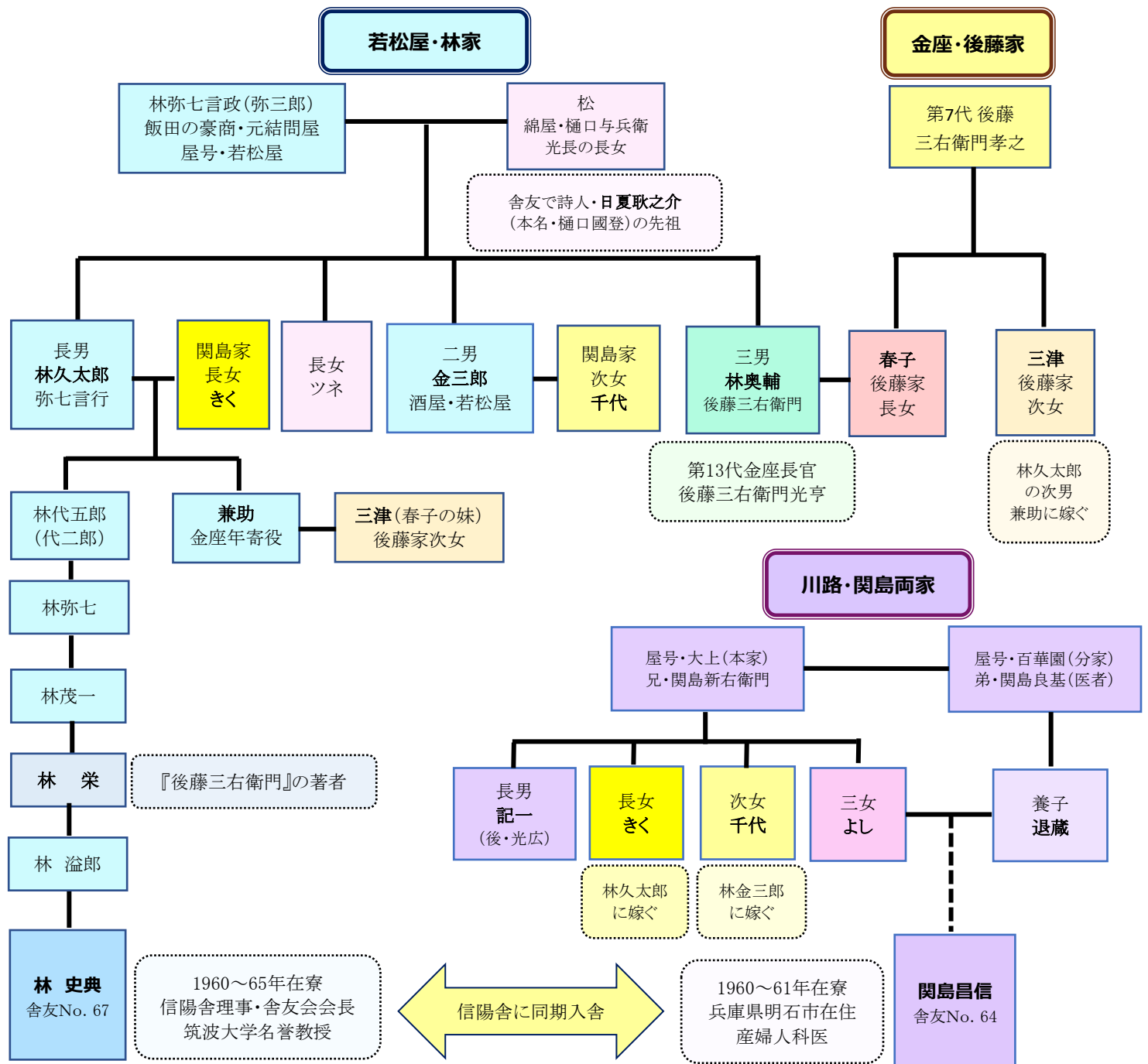
関島昌信：信陽舎舎友No.64、産婦人科医(兵庫県明石市)、川路村関島(百華園)家直系の子孫

林 史典：信陽舎舎友No.67、信陽舎理事、舎友会会長、筑波大学名誉教授、若松屋・林家直系の子孫

(文責・福興)

林家(若松屋)・後藤家(金座)・関島両家(川路村)の系図

信陽舎で同期であった林 史典さんと関島昌信さんの血統と金座・後藤家



林家(若松屋)長男・久太郎に嫁いだのが関島家(大上)の長女・きく、林家二男・金三郎に嫁いだのが関島家二女・千代、林家三男・奥輔は後藤家長女・春子に入婿し後藤三右衛門となる。林家長男・久太郎の直系の子孫の第7代目が林史典さん(舍友No.67)であり、関島家(百科園)の養子・退蔵に嫁いだのが関島家(大上)三女・よしで、その直系の子孫が関島昌信さん(舍友No.64)である。1960年(昭和35年)入寮の同期生である林史典さんと関島昌信さんは奇しくも若松屋・林家と関島家の血統で繋がっていたのである。

若松屋・林家の二男・金三郎が江戸で開業した酒屋「若松屋」の奥座敷は、弟奥輔・後藤三右衛門の力添えを得て江戸開城を目指す藩士たちの密談場として歴史的な役割を担ったのである。

また、関島家の長男・記一(光広)が名優・市川団十郎、尾上菊五郎などの川路興行招請するにあたり、記一の義弟である後藤三右衛門は二百三十両を支援したというように、若松屋・林家と後藤家、関島両家は非常に強い血統関係にあったといえる。

(舍友ルーツ余話文責・福興)



転居通知

牧内 良平（91、1961年）：五月晴れのいち日、50年住み慣れた家から、近くのマンションに引っ越しました。震災に備えるとともに、これまでの生活をリセットし、コンパクトな生活に切り替えて、新たに穏やかで、心豊かな暮らしをしたい、との思いからです。今後とも宜しくお願ひし、転居のご挨拶とします。
2025年5月〈神奈川県海老名市下今泉〉

五島 章仁（406、1996年）：2025年4月より松本から飯田市松尾代田に戻ってきました。

後田健太郎（593、2013年）：今年の春に同じ飯田市内の上郷黒田に転居しました。

大石 晃也（608、2015年）：4月より小諸の本社勤務となり、上田市国分に引っ越しました。

塚田 泰史（625、2017年）：勤務先が松本から伊那に異動になり新しい住所も伊那市中央になりました。中信支部ではありませんが今後も可能な限り舎友会のお手伝いできればと思っています。

風間 大輝（644、2019年）：2023年に退寮した風間大輝です。この春大学院を修了、就職先が決まり住まいも東京都江東区亀戸に転居しました。

五味 零弥（651、2021年）：2025年3月卒寮、東京都の小学校教員となり東京都小金井市東町に転居。

太田 悠（653、2021年）：2025年3月卒寮、東京農工大学院に進級、小金井市中町の大学院寮に転居。

青木創汰朗（675、2023年）：2025年3月中途退寮し、東京都三鷹市井の頭に転居。

第9回総会開催案内返信ハガキ、Line、メール等による便り

高柳 俊男（S2、特別会員）：毎年のごとして、長野県にはいるのですが、ちょうど飯田で留学生の研修中です。ご盛会をお祈り申し上げます。

榊原 雅直（S3、特別会員）：総会には出席させていただきます。会報16号を有難うございました。林史典先生のルーツ余話楽しく拝読させていただきました。総会ではお世話になります。

宮川 章義（14、1956年）：残念ですが総会には出席できません。盛会を祈っています。昨秋、高齢者叙勲を拝受し人生最終段階に入りましたが、元気に過ごしています。

椎名 治一（34、1959年）：総会は欠席しますが、信陽舎舎友会のご発展を心より祈念しております。役員の皆様方ご苦労様でございます。

高間 成之（38、1959年）：現在入院加療中です。

古島 史雄（47、1959年）：久しぶりの松本訪問（総会）を楽しみにしております。天候も穏やかで、盛会となりますよう祈念しております。

安藤 光弘（52、1960年）：年齢相応に日々過ごしております。

久保田光昭（58、1960年）：腰痛で総会に参加できなくて残念です。

関島 昌信（64、1960年）：総会に出席いたします。舎友の皆様にお会い出来ることを楽しみにしています。

浜 国昭（65、1960年）：刎頸の友との別れで落ち込んでいます。舎友・小池章氏の死去の報もショックです。舎友の皆さん長生きして下さい。

嶋岡 洋平（78、1960年）：年齢を取ると歩行困難やそれ相応の病気にかかります。今、リハビリのデイサービスやクリニック、病院に行くことが多くなりましたが、大事にならないように頑張っております。

神波 潔（85、1961年）：総会は欠席致します。ご盛会をお祈りします。

坂 好章（99、1962年）：（総会の）盛会を祈念いたします。妻が3月に他界し、喪に服しております。

中田 茂（102、1962年）：残念ですが総会当日は所用のため欠席させていただきます。盛会を祈念いたします。

上松三治彦（108、1963年）：今回の総会は欠席させていただきます。ご盛会を祈ります。

池神 利勝（109、1963年）：いつもご苦労様です。総会には出席します。以前、松本の深澤克巳君宅の墓参りに一緒にしたことを思い出します。

福田 璋夫（116、1963年）：残念ですが（総会）は欠席致します。ご盛会をお祈りします。

塩澤 明（138、1965年）：家族旅行と日程が重なっており、（総会には）参加できませんので、宜しくお願ひします。

竹村 治恭（140、1965年）：第9回信陽舎舎友会総会が松本で開催されます。総会には多くの舎友の皆様が出席され、舎友同士の絆が深まり、信陽舎存続の礎になる総会になれば幸いです。

原 鍊造（144、1965年）：今、こちらは田植えのシーズン。夜になるとゲロゲロとカエルの声がうるさいです。もうすぐ梅雨の季節に入りそうです。お互いに身体を大切にしましょう。

岡田 善勝（148、1966年）：3男坊のお寺（化野念仏寺）へ行くため（総会には）欠席致します。皆様によろしく！竹村支部長並びに役員の皆様方ご苦労様です。

鈴木 昭夫（154、1966年）：旧年は能登地震の調査・まとめ・出版・講演と忙しい1年でしたが、多少ならずとも社会貢献できたかと思っています。松本の総会には体調の問題もあり欠席致します。総会の成功を祈っております。

仲田 哲夫（155、1966年）：総会・懇親会のご盛会を祈念します。

牧野 憲治（157、1966年）：返信が遅くなり申し訳ございません。総会には出席致します。当日を楽しみにしております。

松山 順治（158、1966年）：いつもありがとうございます。当方、山を友達にして楽しんでいます。

伊藤 寿彦（162、1967年）：9月のセミナーの日程がまだ未定のため、（総会）出欠の確実な返事ができません。出席する場合は、7月10日までにご返事させていただきますので宜しくお願いします。

金田 憲治（164、1967年）：いつもいつも大変お世話になります。また、会報を楽しく、そして懐かしく拝見させていただいております。ゴルフの飛距離は落ちる、階段の昇り降りがキツくなるなど体力・気力とも衰えつつあります。でも、もうひと踏ん張り！！



第9回総会開催案内返信ハガキ、Line、メール等による便り

- 櫻井 康夫（166、1967年）： 会報をありがとうございました。楽しく読ませていただきました。総会のご盛会を祈念いたします。
- 代田 博文（167、1967年）： 長期療養中のため総会は欠席致します。
- 古川 善博（169、1967年）： 9月第1土曜日は毎年、別の会合があり、幹事をしているので、舎友会には出席できません。ご盛会をお祈りします。
- 浅沼 弘愛（172、1968年）： 舎友会の松本開催おめでとうございます！ ご当地は、縁あって1972年サイトウキネンオーケストラの開催以来数回
お邪魔したことがあり、大変懐かしいところです。今年は、古島、伊原両氏から信陽舎との接点を賜って本年の評議員会で10年です。
記念の60/110周年にも出会い、来年は70/120周年の歴史になるとのこと目出度い限りです。時に老兵は消え去るのみと言われます
が、我が老兵にもその時になったかと思う昨今です。舎友会を楽しみにしております。
- 井上 潔（173、1968年）： 予定があるため（総会には）欠席いたします。盛会をお祈りいたします。
- 久保田信行（174、1968年）： 信陽舎にお世話になって50余年！！皆様にお会いしたいのは山々ですが、事情により残念ながら欠席致します。
総会のご盛会をお祈りいたします。
- 遠山 正信（181、1968年）： 相変わらず家庭菜園を楽しんでおります。
- 小坂 恒夫（187、1969年）： （総会の）ご盛会を祈ります。
- 中村與志人（191、1969年）： 昨年来大腸癌ステージ4のOPを受け、小康状態です。総会には参加希望ですが、当日の体調次第だと思います
ので宜しくお願いします。
- 前澤 孝一（193、1969年）： （総会には）残念ながら欠席致します。ご盛会と皆様のご多幸とご健康をお祈り申し上げます。
- 森山 幹夫（196、1969年）： 誠に残念ですが、当日別件にて用事がありますので総会を欠席させていただきます。皆様に宜しくお伝え下さい。
- 今村 行人（200、1970年）： （総会には）出席致します。当日皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。
- 田尻 実（207、1970年）： 総会は法事の為欠席とさせていただきます。大変申し訳ありません。皆様に宜しくお伝えください。
- 岩原 晃（214、1971年）： お世話様になります。家のリフォーム工事と（総会の日が）重なり失礼いたします。総会のご盛会を心よりお祈り
申し上げます。
- 中村 泰昭（234、1972年）： 20年前、子会社勤務で常夏の国フィリピンに滞在していた頃、寒さに弱い私はこの常夏の国への移住を決め、永住
ビザを取得していました。昨年5月、ようやくコンドミニアムを得て7月から移住を始め、胸ケ根の自宅との往復生活です。9月は日本に
居ない予定のため、残念ながら総会には欠席となります。今まで出られなかったのも、今回は調整して出席したいと思います。
- 笠原 修（247、1973年）： たびたびのご連絡を有難うございました。現時点ではこの時間に松本に行くことができませんので欠席とします。皆
様によろしくお伝えください。
- 原 恵一（249、1973年）： 総会には出席させていただきます。皆様にお会いできるのを楽しみにしています。
- 岡田 幹生（250、1973年）： 久しぶりに皆さんにお会いしたかったのですが、今年度地区役員で行事出席が多く、（総会）は欠席させていただきます。
- 山越 晴彦（251、1973年）： 総会に向けてのバックアップを有難うございます。楽しい総会にしましょう。
- 杉本 研一（254、1974年）： 一番多感な時期に寮生活を経験したことは、自分の人生観や人格形成に大きな影響があったと思います。「信陽
舎はとても良いぞ」と入寮を勧めてくれた寮の先輩でもある叔父には今でも感謝しています。
- 水上 治（258、1975年）： 総会には出席いたします。教職も再任用が終了し、松川高校にて非常勤講師をしております。
- 吉沢 敏之（259、1975年）： 総会に出席いたします。現在木版画をたくさん作っています。バレンも作ってます（現在39個）。
- 山口 益弘（270、1976年）： 杉本研一さん、総会の準備・運営をご苦労様です。支部報告の中の写真で山越晴彦さん、田村裕昭君、滝澤
敏章君の顔が見れて懐かしかったです。
- 青柳 淳英（280、1978年）： 総会当日、上期の業績会議があり、残念ながら欠席です。中信地区の皆様宜しくお伝え下さい。
- 福澤 淳一（282、1978年）： 本年（25年）2月に43年間のサラリーマン生活を終え、事業主（福澤建築計画）として再スタート。60歳過ぎ
てから、ゴルフに仕事に楽しい友人達といきいきと過ごしております。
- 岩原 伸（290、1980年）： 天候不順の折、健康にはお気を付けください。舎友会総会はお手伝いさせていただきますので宜しくお願いします。
- 高野 雅彦（302、1981年）： （総会が）県内開催で喜ばしい限りですが、当日地域公園の草刈り作業及び整備が計画されています。地域役
員としての責務を果たさなければならず、残念ながら本年も欠席とさせていただきます。
- 仁科 圭右（306、1982年）： 本年2月に実母（橋本悦子）が92年間の生涯を閉じました。総会・懇親会の盛会を祈念します。
- 宮澤 敏彦（312、1983年）： 今年、大学の同窓会が国分寺であったので、武蔵境や信陽舎前などに立ち寄りました。懐かしい思い出がよみがえ
りました。
- 小林 隆（354、1989年）： 大変申し訳ございませんが、今回の総会は仕事で欠席致します。皆様によろしくお伝えください。今後ともよろしく
お願い致します。
- 田中 寿（369、1991年）： 4月より京都で鍼灸学校に通い始めました。3年後の国家資格取得に向けて勉強中です。西洋・東洋、双方の
医療を学んでいます。少しずつ知識と知識がつながり、人間の身体のしくみの素晴らしさに日々驚いています。
- 安藤 道彦（366、1991年）： （いろいろと）有難うございます。
- 坂田 雅生（421、1997年）： 《母親代筆》息子・雅生が信陽舎時代は大変お世話様になりました。雅生も渡米して26年、すっかりアメリカにて
家族と共に生活しており、なかなか来日することがありません。度々の総会のご連絡に恐縮しております。どうか皆様に宜しくお伝え下
さい。益々の信陽舎のご発展をお祈り申し上げます。

第9回総会開催案内返信ハガキ、Line、メール等による便り

大槻 拓真（423、1997年）： 高1の息子に、今から信陽舎を勧めています！

関口 豊和（479、2002年）： お陰さまで2児の家庭で無事生活しております。 学生時代の大変な時に大変お世話になりましたこと誠に有難うございました。 総会の盛会を祈ります。

佐々木優一（572、2011年）： 相変わらず札幌にて元気に過ごしております。 暑い夏がやってまいりますので、御身体に気をつけてお過ごし下さい。

山崎 達也（584、2012年）： 何とか予定調整をして総会に参加したいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

神藤 駿介（606、2015年）： 多摩川精機は防衛事業の受注が高まり新棟建設なども進み変革の最中ですが、人材確保に苦戦しております。 皆さんのお名前をとて懐かしう寮生活を思い出しております。 今回は子供の世話などがあり参加が叶わず次年度に期待しております。

山本 裕人（624、2017年）： 仕事の為（総会に）参加できず申し訳ありません。 変わらずに東京に居りますが、健康に過せております。

平出 拓也（657、2022年）： 学業により（総会には）参加できません。 よき会となることをお祈りしております。

藤原 改さん(舎友No.648、2021～24在寮)合唱団世界選抜メンバーに！

世界各地から選抜された歌い手64人のうちの1人として 7月13日からスペイン、フランスで公演

伊那市富県出身の藤原改さん(23)＝東京学芸大学大学院教育研究科2年生＝は、13日～31日にスペインとフランスで行われる世界青少年合唱団のコンサートツアーにバスパートメンバーとして出演する。 世界各地から選抜された18～26歳の歌い手64人で構成され、藤原さんは日本人で選ばれた5人のうちの1人。 大舞台を前に「いろんな国の優れた歌い手から多くの技術を吸収して、歌を響かせたい」と力を込める。

同合唱団は国際合唱連合やヨーロッパ合唱連盟などでつくる財団によって主催。 異文化理解や高いレベルの音楽性による披露を目的に1989年から年1回ペースで開かれている。 今回はスペインのサグラダファミリアなどを会場に計8回公演を行うという。 藤原さんは小学生の頃から歌うことが好きだったといい、伊那市立東部中学校と伊那北高校では合唱部に所属。 中学生の時は合唱コンクールの県代表に選ばれ、高校生の時は全国大会に出場した。 他者との声の調和やハーモニーのバランス、活動を通じた触れ合いなどに惹かれ、多人数が歌うことで「もっと大きな表現ができる」魅力を持つ合唱の技術を磨き続けてきた。 現在は音楽教諭を目指して勉強中で、今年が音楽を学ぶ区切りの年になることや世界レベルの音楽を学んで日本に伝えたい思いから同合唱団に応募。 昨年12月から2度のオーディションを経て合格を勝ち取った。

歌の持ち味について「自己主張し過ぎず、ほかの人の表現や声に寄り添える」と分析。 ツアーで歌う曲は英語やドイツ語で、パートメンバーも多国籍のため言語の壁はあるとしつつ「一人ひとりが持つ声の色がどんな響きになるか楽しみ」と期待を寄せる。 藤原さんは「現地でいろんな国の人と歌い、一流の指導を受けて世界を知って今の日本の合唱教育を新しい視点で見つめ、自分の教育活動に生かしたい」とし、異文化の人たちと歌声を通じて平和について考える機会にもしたいとの考えだ。



(長野日報7月11日付記事より)



新祭で美声を披露する藤原改さん



桜堤ケアハウスでのソロコンサートで歌声を披露する藤原改さん



訃報
ご冥福を！
物故者 76名
(武蔵境寮以降)

- ❀ 高間 成之さん(舎友No.38 在寮期間1959～1962) 令和7年6月27日ご逝去、84歳。7月5日に舎友の金田憲治さんより第一報をいただいた。高間成之さんは、かつて信陽舎飯田支部の会長として舎友会の発展にご尽力いただきました。高間成之様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。
- ❀ 小林 利行さん(舎友No.178 在寮期間1968～1970) 令和6年11月ご逝去。舎友同期の五島久揮さんより、小林さんの奥様から訃報を聞いたとのこと。小林利行様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。
- ❀ 宇敷 貴さん(舎友No.227 在寮期間1972～1974) 令和7年5月31日ご逝去、71歳。ご親族より第9回総会・懇親会の返信ハガキにてご連絡いただいた。宇敷 貴様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

令和7年度新入寮生歓迎会

令和7年4月26日(土) 午後6時00分～午後8時00分 2階 食堂

令和7年度新入寮生歓迎会の出席者は、新入寮生12名、先輩寮生12名、理事4名、舎友2名、桜堤ケアハウスの小松様、浜野様に長谷川寮母さんを加えて総勢33名となった。

定刻の午後6時、先輩寮生や理事、来賓など21名が待ち構える中、駒井副寮長の先導で新入寮生たちが拍手に迎えられて入場、窓側一列に12名が勢ぞろいした様子は壮観である。全員着席し、後藤寮長の開会挨拶、福興理事長挨拶と続いた後、久しぶりに出席された林史典理事より概略以下のようなご祝辞を頂戴した。

「大学では専門分野の学問を深く学ぶことになるが、専門分野だけでなく他の分野の学問など幅広い教養を身に着け人間的に成長することが大事だ。私が筑波大学に勤務している時、様々な企業の採用責任者と話をしたが、中規模の企業からは専門分野に特化した即戦力として使える学生を要請されたが、大手の余裕のある企業からは、幅広い教養を身に着けた人物重視を要請された。社会に出てから本当に力になるのは、専門分野に特化した能力ではなく、幅広い視野と的確な判断力をもった能力だから、視野の狭い人間にならないよう幅広く学んでほしい」

続いて桜堤ケアハウスの小松生活指導員からお祝いの挨拶、池野兼浩常務理事の発声による乾杯と続き楽しい宴が始まった。今回は久しぶりに30名を超える大人数にもかかわらず、次から次へと出てくる豪華で温かい料理の美味しさに参加者一同感激の連続であった。

新入寮生12名の自己紹介が始まった。一人ずつマイクを握り、部屋番号、出身高校、在籍大学・学部、趣味・特技などの紹介があった。

初々しい新入寮生12名の自己紹介



中村太智君
東京学芸大1年
(松本県ケ丘高校)



津倉侑和君
明治大学1年
(松本美須々丘高)



石原東洋君
法政大学1年
(高崎経済大付属高)



北山航太君
日本大学1年
(長野日大高校)



平松 陽君
国際基督教大1年
(ICU高校)



岡島寛弥君
工学院大学1年
(飯田高校)



百瀬晃弘君
東京理科大1年
(長野日大高校)



井出弥来君
杏林大学1年
(野沢南高校)



中林謙仁君
東京農工大1年
(松本深志高校)



佐藤 輝君
亜細亜大学1年
(茅野高校)



黒河内祐輝君
東京学芸大2年
(北杜市立甲陵高)



中嶋 昂君
日本大学4年
(長野日大高校)

宴半ば、恒例の余興が始まった。まずは2年生6名が肩を組んで歌を披露、次に並木雅周君のエレキギターの伴奏で後藤亮太、田牧優成両君が美声の披露、最後に宮坂佳樹君が得意の早口ラップ?を披露すると満場大喝采! 次に登場したのが4年生の余興大好き凸凹コンビ、真面目教師の卵・佐藤大地君と舞台俳優の卵・小山ういる君。佐藤大地君の歌に合わせて踊る小山ういる君の珍妙ダンスに会場は大爆笑となった。

長谷川さんなどはその凸凹コンビの珍妙な歌とダンスの可笑しみに笑いが止まらず涙まで流す始末。続いて3年生の高橋諒多君と竹元大貴君が登場し難問クイズゲームを始めた。難問を一番多く当てた「1等賞は風呂当番免除!」と発表したところ、大歓声が上がり全員真剣に難問に挑戦していた。最後に真打・新入寮生12名がキラキラ輝くフラワーレイを首から下げて登場。新入寮生の中で年長の中嶋昂君と黒河内祐輝君のリードで踊り出したのは マツケンサンバ! 入寮して4週間足らず、ほぼ一夜漬けのぶっつけ本番にしては皆 ノリノリ。サンバのリズムに乗って踊りまくる様子は壮観であった。余りに楽しそうに踊る新入寮生たちの姿に吊られ3年生の高橋諒多君と2年生の駒井創君も飛び入り参加して踊り出す始末。余りの面白さにケアハウスの小松指導員さんから「ケアハウスの行事でお年寄りにも披露してください」と頼まれていた。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、閉宴の時間となった。参加者全員で記念写真を撮って午後8時に解散となった。

(運営記録より)





年会費納入のお願い！

昨今の諸物価高騰により、郵便料金や会報印刷費が年々値上がりがしている一方、年会費の収入が伸びないため、会報印刷費と通信費だけで年会費収入を上回り赤字となってしまいますので、年会費納入にご協力をお願いします。

年会費収入実績

年度（納入人数）	収入金額
2020年度（145名）	290,000
2021年度（139名）	278,000
2022年度（138名）	276,000
2023年度（139名）	278,000
2024年度（133名）	266,000

会報印刷費用推移

発行年度（号）	印刷費
2018年度（第2号～3号）	139,968
2019年度（第4号～5号）	143,856
2021年度（第8号～9号）	146,520
2022年度（第10号～11号）	185,625
2023年度（第12号～13号）	195,525
2025年度（第16号～17号）	200,295

通信費用（郵便料金等）推移

事業年度	通信費
2021年度	70,026
2023年度	86,050
2025年度	107,000

2024(令和6)年度 信陽舎舎友会 会計報告

収支	項目	摘要	金額
収入の部	繰越金	前期(令和5年度)より繰越金	151,956
	年会費	2024年分 131件	262,000
	”	2023年分 2件	4,000
	第8回総会参加費	7,000x30名	210,000
	雑収入	総会お祝金、募金、役員会議費残金等	22,500
合計			650,456

支出の部	会報「武蔵野」制作費	第14号、第15号(各450部)印刷代	195,525
	総会開催費用	第8回総会(新宿サンパーク三平)費用	208,200
	事務費	印刷用紙、プリントインク代等	11,776
	通信費	案内状・返信ハガキ、会報郵送料	70,446
	手数料	郵便振替・印字手数料、振込手数料等	19,272
	小計		505,219
	繰越金	次期へ繰り越し	145,237
合計			650,456

繰越金内訳	郵便振替口座	139,759
	現金	5,478

2024(令和6)年度 信陽舎舎友会 会計監査報告書

信陽舎舎友会 殿

2024年度信陽舎舎友会における事業報告、決算収支報告書、郵便振替口座、現金出納帳並びに付属明細書、領収書等を監査した結果、適正に処理・記載されていることを認めます。

令和7年5月24日

信陽舎舎友会 監事
原 誠 印

信陽舎舎友会 監事
後田健太郎 印

【事務局からのお願いとお知らせ】

信陽舎創立120周年・武蔵境寮再建70周年記念冊子「武蔵野」への投稿のお願い！

信陽舎は、来年（2026年）創立120周年、武蔵境寮再建70周年、春秋館開館30周年という記念の年を迎えます。ついては来年の第10回舎友会総会・懇親会は、記念総会としてアルカディア市ヶ谷にて盛大に開催する予定で、記念冊子「武蔵野」の発行も企画しております。

記念冊子は、これまでに「五十年史」、「再建二十年（創立70年）史」、「信陽舎100年のあゆみ」が発行され、2016年に武蔵境寮再建60年記念冊子「武蔵野」が発行されておりますので、2016年から2025年までの10年間の歩みを中心とした記念冊子を考えております。

つきましては、記念冊子への投稿をお願いします。寮生活の懐かしい思い出やら近況報告などを下記事務局宛てにお寄せください。

《 会報「武蔵野」編集委員 》

福田 璋夫(116)	福與 卓臣(117)
原 誠(220)	福澤 秀志(266)
仁科 圭右(306)	坪木 崇(408)
田中 淳一(470)	岩原 優(580)

文中の挿絵(版画・スケッチ等)の作画は福與卓臣

発行人：林 史典（会長）

事務局：福與卓臣（事務局長）

〒225-0026 横浜市青葉区もみの木台 34-8

☎(045) 902-2575 携帯☎090-9841-6349

E-mail: tof2943@citrus.ocn.ne.jp

会報「武蔵野」第17号 令和7年9月1日発行